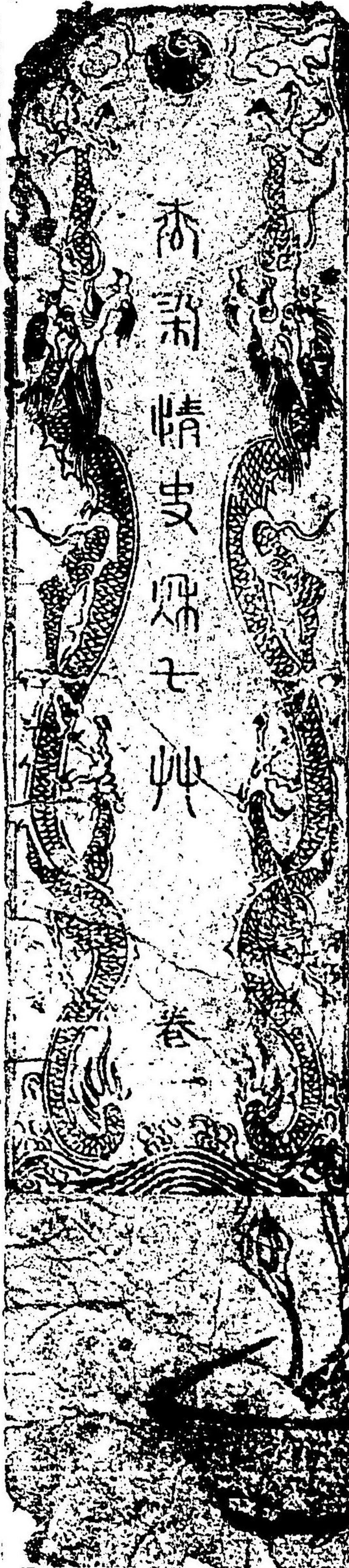


東 京 圖 書 館			
五 四 七	二 二 七	二 六 函	小 說 類
冊	號	架	

香齋情史編七冊

卷一



花の七草の使の図

秋七草



物の本化者 曲亭馬琴著
 浮世繪師 歌川豊廣畫

浪華
 文金堂
 書肆

七月七日何れ敷き女房のせしきとて秋七草の用は

ふりせきく某れはきよなふはけくたまたまも

はしりの雨ふぬおも傘とて高きをくくく

花の七草の使の図

花の七草の使の図

花の七草の使の図

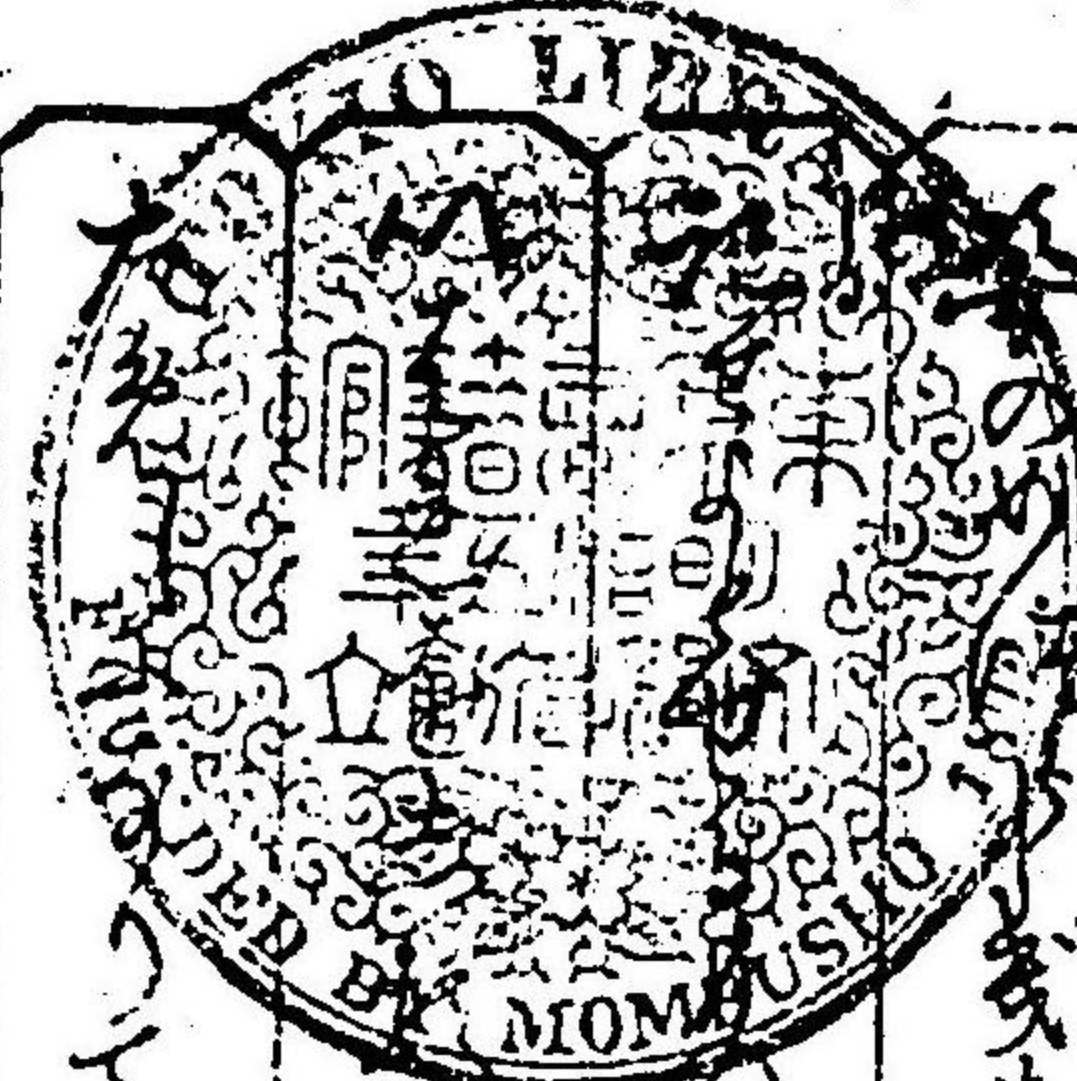
花の七草の使の図

花の七草の使の図

花の七草の使の図

花の七草の使の図

花の七草の使の図



此書竊小細々要記櫻雲記吉野拾遺南朝記傳圖大
 曆錄倉大草紙足利治乱記等の諸説を据へて捕氏
 捕氏の事蹟と述るとりども亦彼三捕實録捕物記
 捕家全書捕軍物記捕物秘本の類と同く捕氏の事蹟
 寓言より只阿染久松が奇耦をいふと姑く捕氏
 名を借るのみ夫艶曲演戯の誨淫猥褻多し説者流の取
 更ふ松染の節操次録と種七草と命るもの華説の花
 の一専實の實多し一首を證して一部の要を
 捕物記の松の標由草かして

序


積雨初銷新月臨軒忽見客至兼燭
 出廷即書壁文刻堂主人也自陳曩
 者浪華書林森本生有竊請于先生
 使僕致意焉今後二更葉葛書本告
 成敢請余曰曩者森本氏請蓋在編
 輯院本所記阿染久松情死之事也

余熟思之。夫久松以一豎兒好于主
家女。妨其婚期。遂至情急勢迫。相俱
枉死。子庫中。則是不義不孝之六者
宜以為戒。豈可更筆之冊子。以宣
淫風哉。此余之所以握筆踟躕。未應
其請也。文刻堂笑曰。先生之言。固是
矣。但書賈相謀。不在義而在利。森本

生以此事煩先生。亦是趁時。每已加
之千里之請。不可峻拒。冀再思之。於
是余乃感其言。有理。翻案數日。主其
事而不拘其迹。換骨奪胎。別自編敘。
一個小說。以塞其羨。其間勸善戒惡。
叙入情託風教。世是微意。所存實作
者一片老婆心也。嗚乎。余雖以著作

自號^不此年撰述幾二百部。書賈請索
 相^不踵^不門^不不暇運^思以故往^不不免
 疎漏^誤多^之稍也。况^矣書^僅出^字數
 目^新業^唯恐^文詞^鄙陋^其不^足以^參
 動^從善^之良^心矣。閱^者幸^恕之^可也。
 文化戊辰年孟統中浣著作堂主人
 書于江戶飯台隱居。



秋七種

第一芳萱
河内二郎正元

吾屋戸乃一村
英子乎念兒
余不令見殆
散都類香聞

我屋戶乃葛
葉日殊色付
奴不座君者
何情曾毛

秋七種
葛花
第三



秋野之草花
我末子押靡而
未之久毛知久
相流君可聞

秋七種
芒花
第二





秋七種

第四
藤袴

此里者繼而霜哉
置夏野介吾見之
草者毛姜和冬里
家利

賣油郎
丹五兵衛



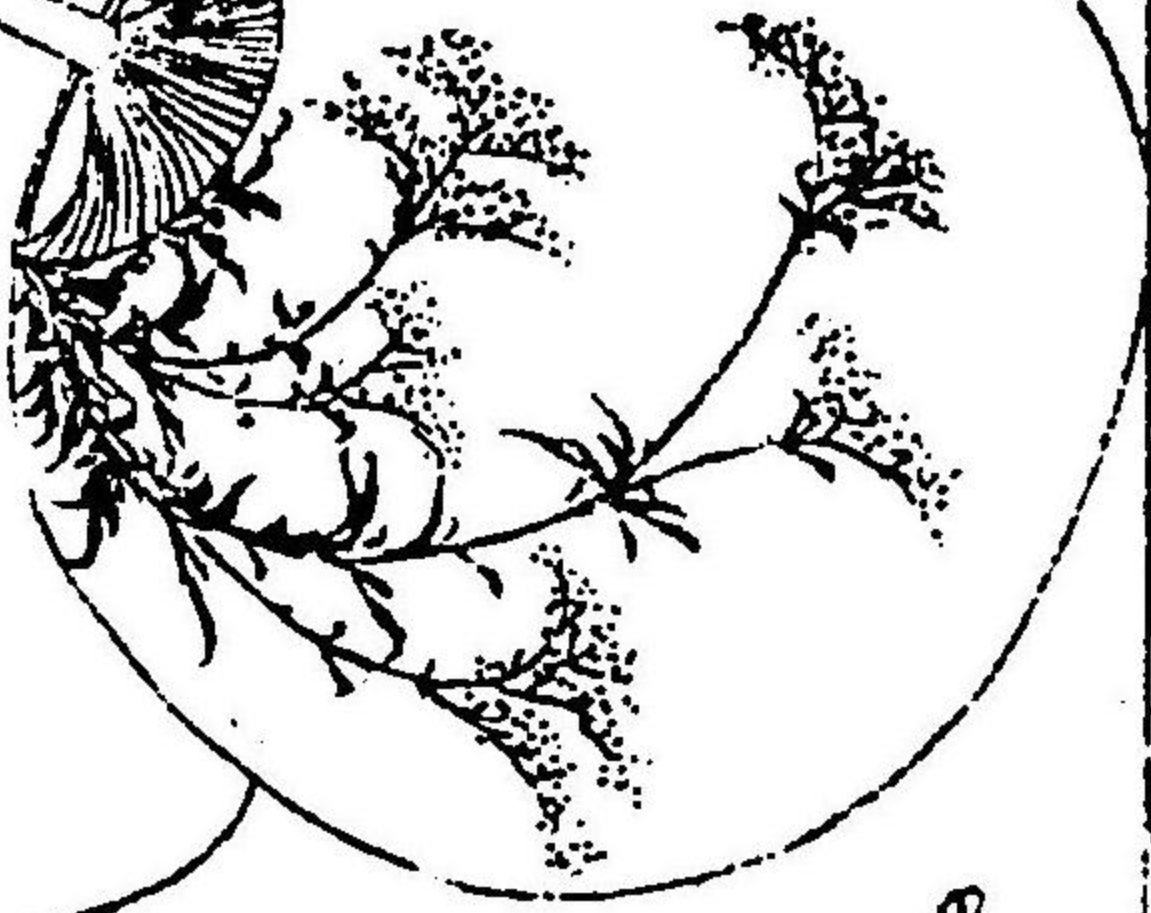
秋七種

第五
牽牛

言出而云忌染
朝親乃
穠庭閑不出
懸為鴨

野崎久作

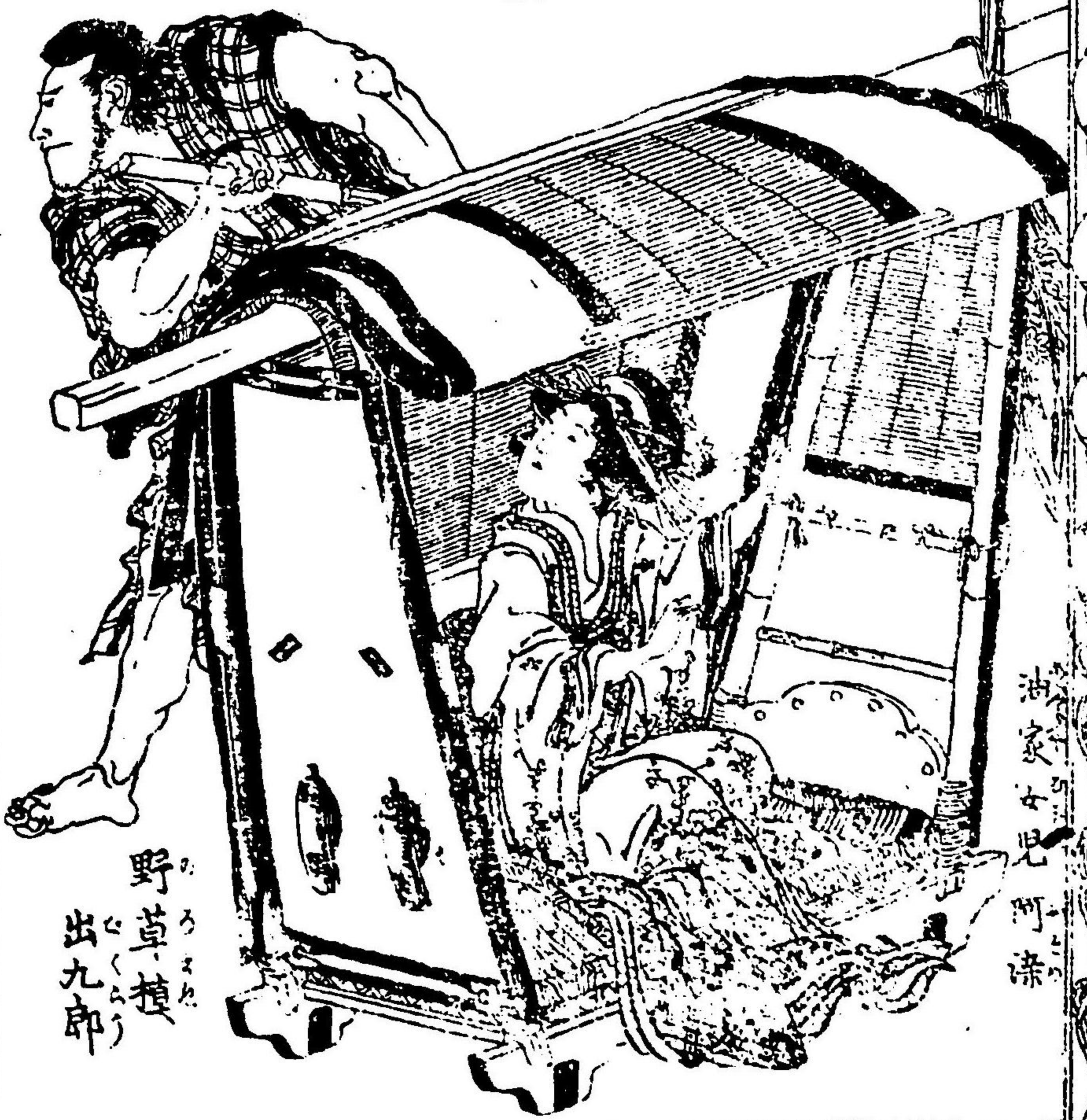




秋七種

第六
女郎花

手取者袖并
丹覆美人部師
此白露尔
散卷惜



油屋女也阿弥

野草
出九郎



秋七種

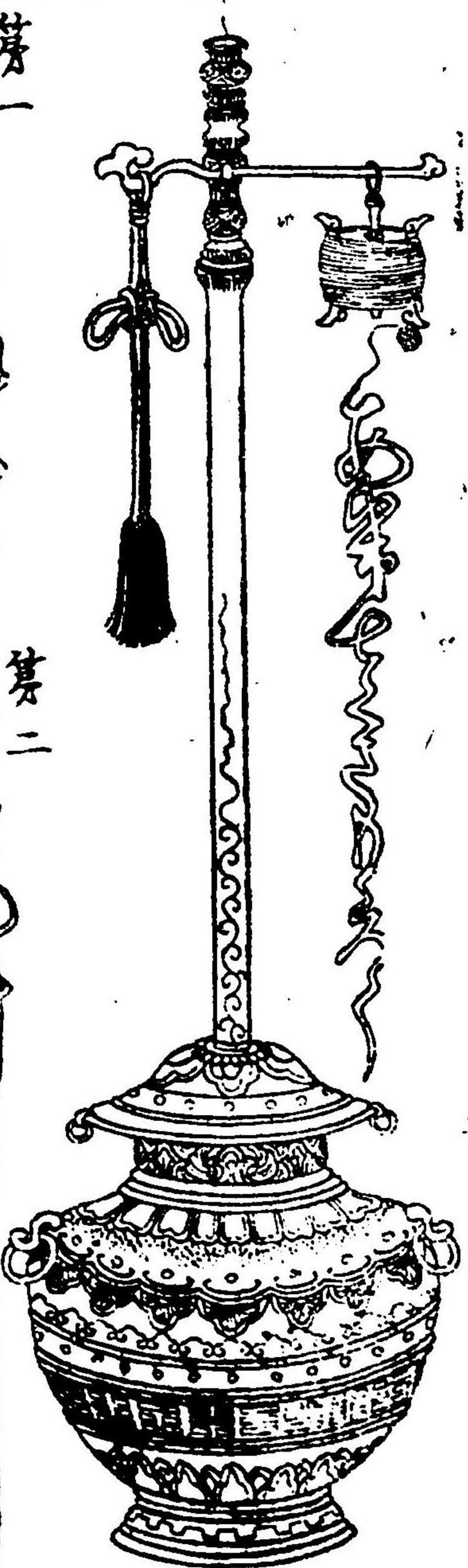
第七
聖麥

每朝吾見屋戸
乃瞿麥之花余
毛居波有許世
奴香聞



小野久松

主官是非八



第一

第二

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第三

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第四

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第五

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第六

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第七

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第八

謹啟

敬啟者本館所藏之書...

第九

第十

謹啟

敬啟者本館所藏之書...



秋野亦咲有花乎指折可
 伎數者七種花
 芽之花乎花葛花瞿麥之
 花姫部志又藤袴朝觀之
 花

右二首山上憶良詠秋七種詩

松涑情史秋七草卷之一

東都

曲亭馬琴編次

第一芳宜ふ名歌 鹿鳴草

都みゆ咲匂人とも鹿の鳴く。名よふ草の秋の山里と詠トん浮世の秋
 の憂ふるん。いとものしれ十善の君ぞよ。吉野の山居もひる頃南朝
 股肱の武臣なりり。楠左馬頭正儀と。上行か赤みく。正成か二部し。
 抑内判官橋正成ハ楠正澄か嫡男みく。その先諸元公。一
 誠忠武畧。古今は拔萃。世は許され。良將のま。今運終ふ
 時を忍ぶ。ゆく末のふらふ。由り。延元のと。め。五月を。あ。の
 日。正季等。こ。り。冠を。防。戦。ひ。つ。根。明。漢。河。の上。み。或。も。行。の
 う。の。の。の。同。胎。奴。を。去。る。を。腹。を。切。る。死。よ。り。後。醍。醐。の。帝。と

て。是を後、電山院とぞやしむる。さる由、捕正儀の三年、本種この謀畧
をやらじ、終んとする。勅、これが殿上人、生上、建部の長、食、後、阻入
らむ。遺恨、かゝる。れは、今、茲、主上のみ、す。世の、花の、梢の、雲、かく、ま
しく、忽、地、崩、も、ひ、く。が、世、ま、も、や、く。と、浅、す、く、南、方、衛、護、の、志、を、遂、げ、
老、黨、の、疎、由、聽、む。子、ご、も、ら、も、あ、ら、せ、ざ、く。と、の、び、く、は、管、領、頼、之、は、消
息、く、足、利、家、へ、降、来、さ、さ、す。誓、書、を、み、く、お、し、入、ま、し、つ、つ、八、時、の、終、
軍、足、利、美、滿、速、に、許、容、め、り、く。右、馬、頭、頼、之、赤、松、判、官、亦、を、捕、が
赤、坂、の、城、へ、遣、さ、る。つ、く、同、年、四、月、下、旬、は、正、儀、入、洛、す。頼、之、が、宿、所、
へ、到、く。款、を、速、勸、盃、了、く。彼、人、は、秀、川、に、美、滿、將、軍、は、見、来、し、く。
龍、尾、と、い、ひ、太、刀、を、進、せ、り、く。美、滿、由、殊、は、頼、之、と、睡、を、び、え、く。件、の
太、刀、を、秘、藏、せ、り、く。と、く、の、條、も、物、結、の、獲、端、あ、く。例、の、寓、言、の、こ、り、

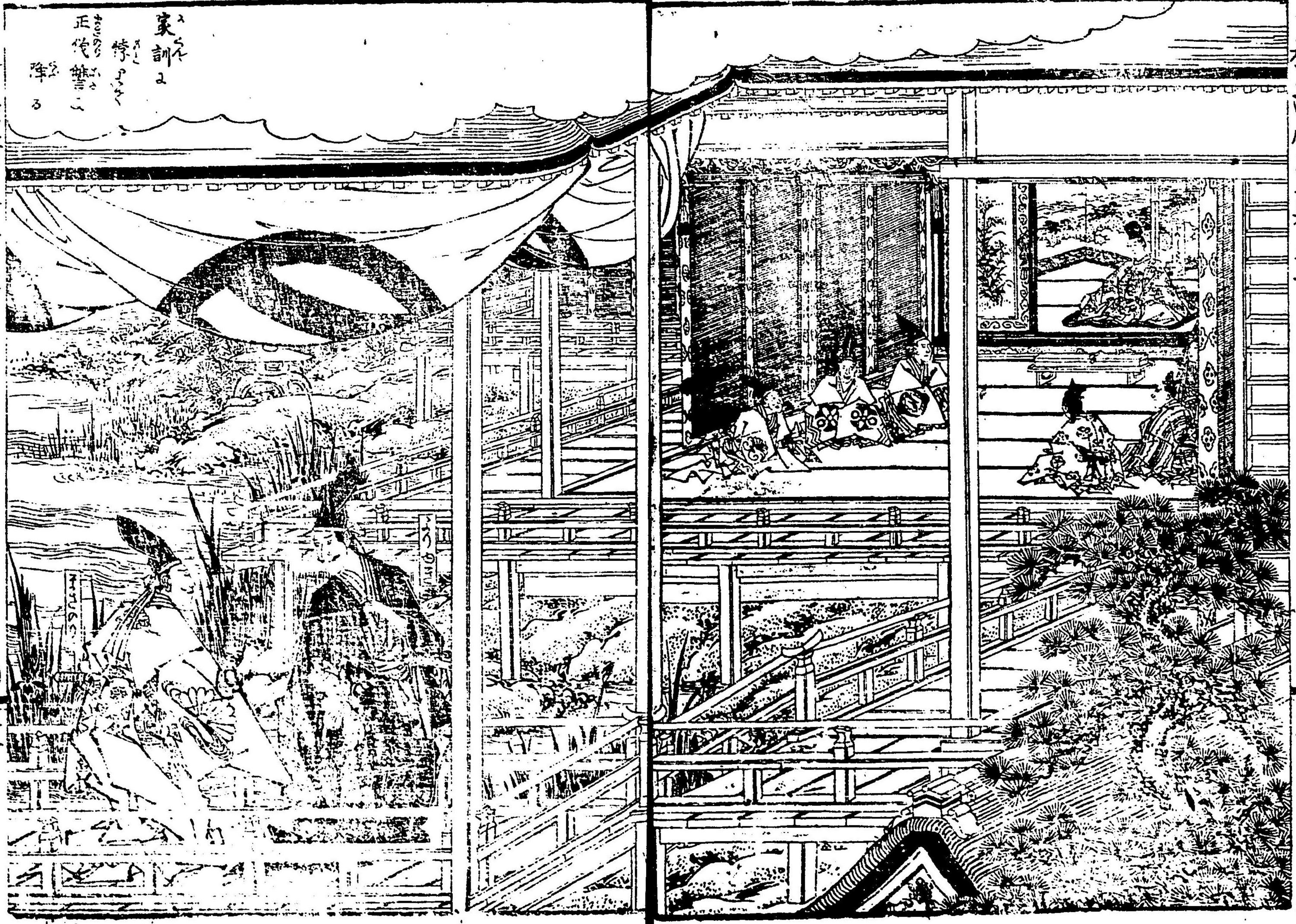
あ、い、な、ど、正、儀、の、上、虚、実、お、な、つ、り、く。さ、う、ま、ど、の、細、く、要、記、極、雲、記、足、
利、治、乱、記、亦、は、正、儀、が、足、利、家、へ、降、来、の、事、を、載、り、く。嗚、呼、い、う、ま、は、
あ、い、南、朝、棟、梁、の、武、臣、と、く。又、と、兄、と、の、遺、訓、を、忘、と、北、年、本、の、忠、
義、を、化、め、く。仇、人、の、前、は、腰、を、折、め、親、族、ら、を、為、し、齒、を、切、り、く。由、
影、護、と、せ、ど、世、の、人、ら、の、あ、み、め、を、笑、入、し、く。耻、辱、と、せ、ど、聽、く、赤、坂、の、
城、み、を、歸、り、後、南、朝、の、勅、命、は、應、せ、り、く。を、浅、様、を、と、み、の、を、
正、儀、は、子、ご、の、二、人、あ、り、く。嫡、男、は、左、兼、右、尉、正、勝、と、呼、ぶ。二、部、は、河、内、
守、正、え、と、い、り、く。この、同、胞、は、足、利、家、へ、降、来、し、く。を、を、
恨、と、憤、り、兄、弟、り、く。も、あ、ら、せ、り、く。千、叡、破、の、城、は、猶、も、
い、よ、南、朝、へ、忠、を、竭、と、程、は、足、子、忽、地、は、不、和、と、り、ぬ、亦、捕、が、一、
族、と、和、田、和、泉、又、正、武、を、い、ぬ、正、平、四、年、の、春、正、儀、と、り、ぬ、四、

松源傳書卷之二

二二

家訓
正徳
降

八景
吉
日
ノ
シ
ノ
シ
ノ
シ



余繩半もて討死しう。右兼つ尉高家の弟も。和田和泉守正
 遠か二男も。件の正武ハ武畧の達者も。双も忠臣も。正
 正俊が挙動いと朽と怒り馬も。正勝正えか。又とつるを授
 ころ。足利家へ後ざるハ。ころろ忠節も。正成ハ正成ハの録
 多れ。構賢。律の録を吉野殿も。南帝の勅命を稟
 正勝ホとさふ。駿の軍兵を招く。赤坂の城へ推寄せ。息をも
 る。正俊堪難く。京都へ援兵を乞ふ。山魚茶竹山ホ。故十の兵
 をとて。赤坂の城も。合戦も。正武正勝ハ。鋒
 鋭く。正俊改を。和田ハ龍泉の城も。正勝正えハ。敵破
 の城も。正俊も。赤坂の城も。常ハ左右。敵を
 受く。只ハ戦ハ光陰を過し。十三年を。

ころ。時ハ北朝ハ永徳元年夏。首も。正俊長を病も。時
 秋。逆も。病の床も。未の。を。の
 親同胞ハ。南朝の忠臣も。邦家の為も。命を。名も。折ぬ。捕
 の家を。不肖も。律も。及。の。弱官の昔
 する。牙も。耕。鋒を。士。兵。を
 煉。利の文。敵も。絶。一。不。の。取。百
 戦。計畧を。用。の。聖。の。頃。一
 ち。臣。の。道。の。今。の。や。足。利。将。軍。へ。伏
 後。子。孫。も。富。貴。を。傳。へ。と。三。世。二。代。共。天。を。戴。る。
 雙。言。款。も。阿。容。と。足。利。家。へ。降。参。せ。の。生。涯。の。悞。と。を。り
 う。子。も。親。も。不。肖。も。義。勇。も。孤。忠。を。竭。と。賢。も。家。の

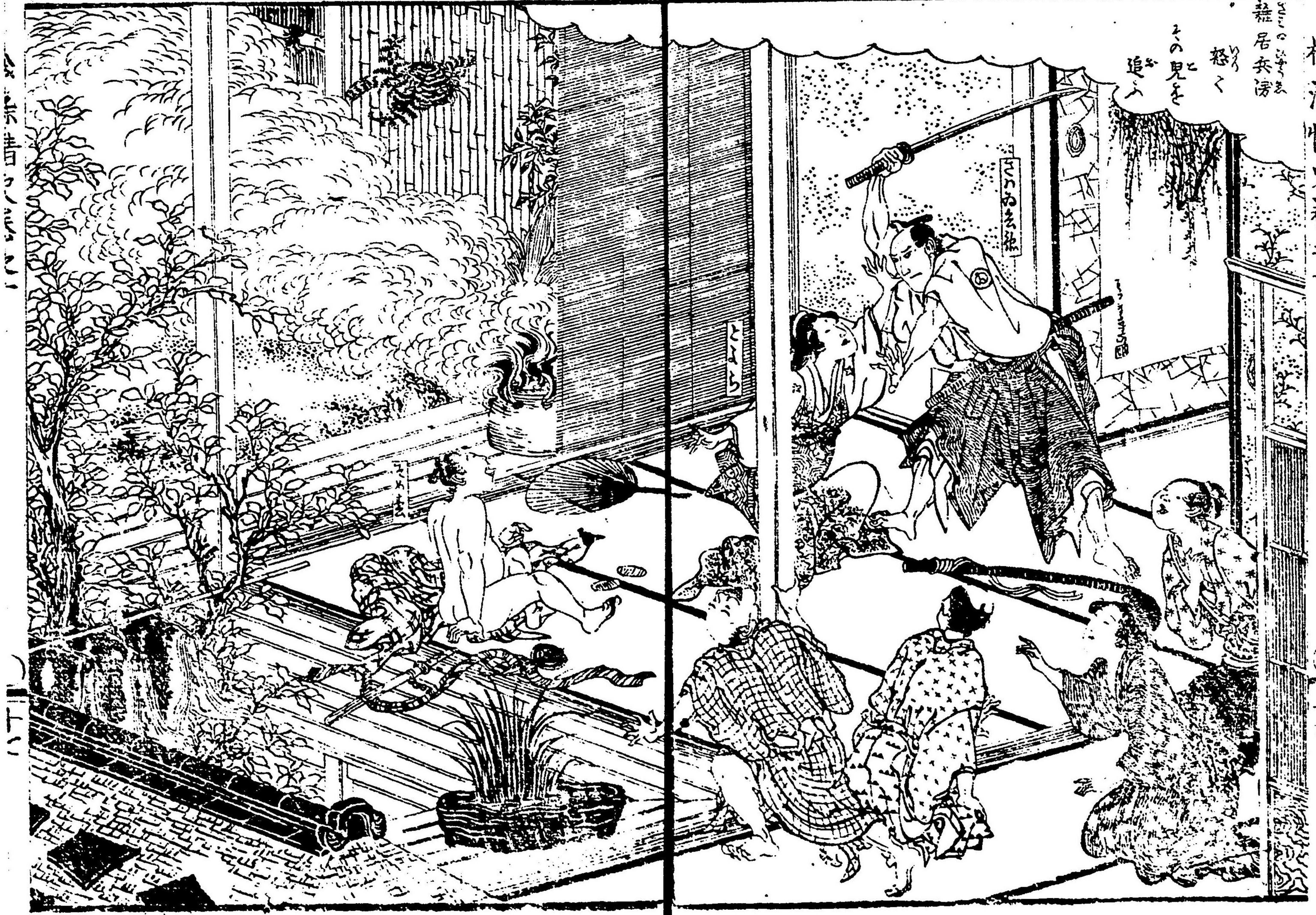
居兵汚

怒

この見を

追

松浦清史

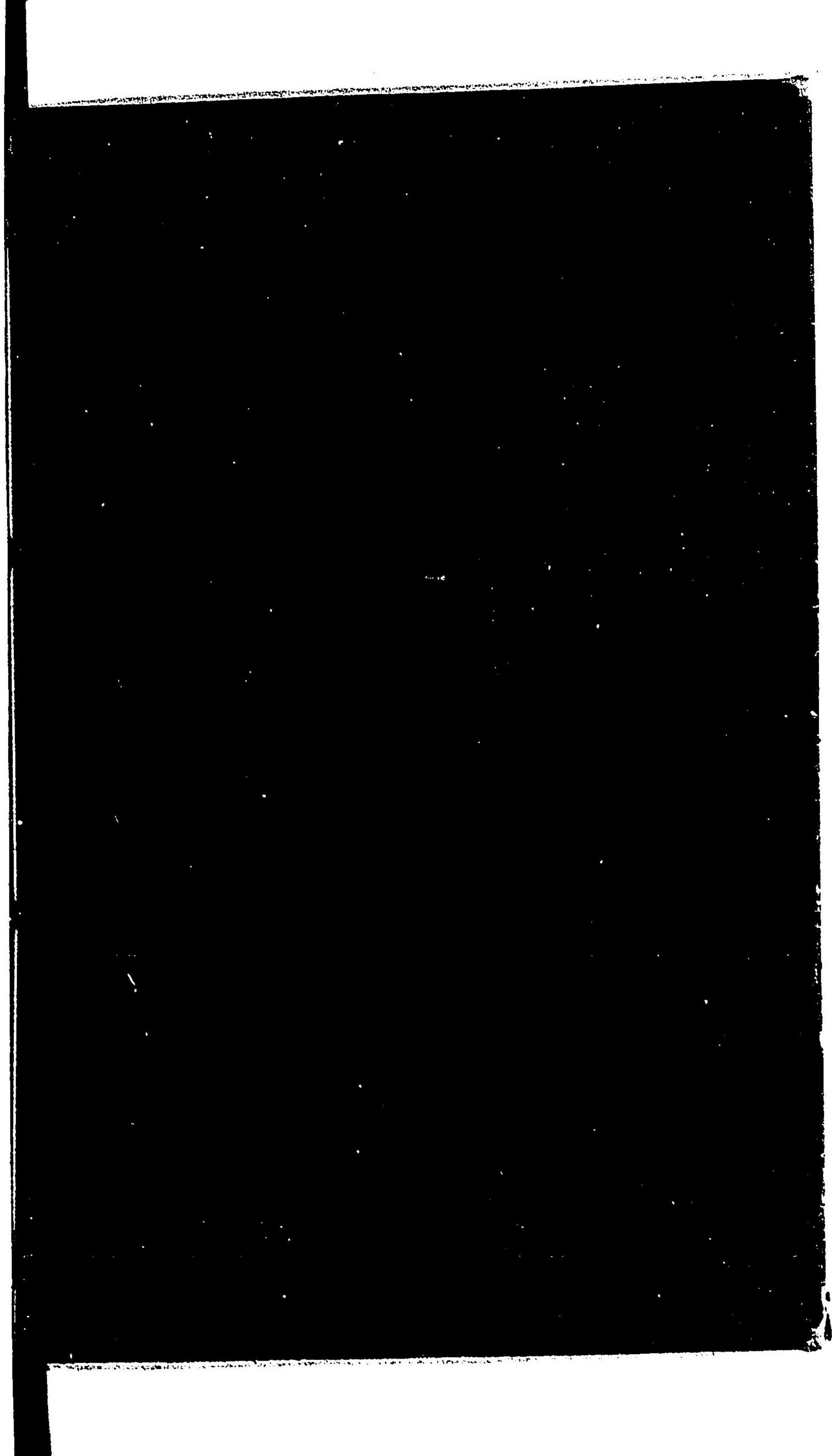


一才のまじり五分の徳あり。彼が目今の奉勳をよそ。いふ思愛
 の囀の絶しう。りさんごもあまぐくハ孰もろ恐るる。かの由這奴
 を追出せといれたまはあつくりとがとぞ。豊浦ハまじり一ふり。
 くとはつ、伏せめが漆ねら母の顔をとけくごとく。親と母はいつるは
 のひそ。叱りうかかるとう。さう出さるる。坐せ金浪珠玉りハとて
 した衣ものを盗まると。おん身一人と漆ねら。いと安ううみ難ハべ。と
 不らうふりの子より。いりも母を浅様く。笑由果止く口を封と奴婢
 どもハ舌を巻く。頻は驚と怖ま。ハ漆ねら。腹とらう。噫はホ
 ハ物食ハ木偶と。うの家をよとる。又ま。い。や
 いらまどとゆらり利。ハが弄物るん。残。被。包。入。ま。
 夕餐の割。准。後。一。跡。追。著。今。宵。の。宿。ど。の。送。し。う。

122
7
20

123
7
20







松染情史秋七草

089423-001-0

122-20

松染情史秋七草

歌川 豊広/画

〔刊年不明〕

DBM-1007



127
7
20

古
深
情
史
秋
七
集